

西野國陽

（平成二十九年三月号）

オスプレイが佐世保の空を飛行せり「原発事故の訓練」として
低音で腹にこたへる飛行音 市街地の上をオスプレイ飛ぶ
有明の海に造りし佐賀空港オスプレイ基地にせむと狙はる
軍用機は使用せずとふ誓約の空港に伸ぶ国の触手は

やつぱりと深夜ニュースに声上げつ墜落大破のオスプレイ見て
「オスプレイは不時着」と言ふ米将のG Iカットに青き筋立つ
「不時着」は予定せぬ場所に降りること 海中に墜ち全壊せしを
わが海に墜ちし機体の回収も聴取、解明できぬわが国



●作者の言葉

桜花、新緑に彩られる春、
佐賀の玄海原発の再稼動が決
定、沖繩の辺野古埋め立てが
強行された。福島原発や基地

問題は未解決のままに。被爆
県長崎にオスプレイが何度も
飛来し、関東まで飛行範囲を
拡大中である。戦争の惨禍を
受けて成長した私は、子ども

や孫に平和で明るい未来を渡したいと願っ
ている。短歌は短い詩型故に含蓄は深く、
鮮明に心に迫って来る。広範な人間、社会、
自然に目を注ぎ、歌に精進したい。間脳腫
瘍を告知された絶望の中、光明を与えて下
さった齋藤佐知子先生、感謝申し上げます。

●選者の言葉

すでに受賞した人の作品以外で揚げてお
きたいのは、真摯に社会詠に向き合った辻
尾修、瑞々しい感受性と想像力豊かな大谷
ゆかり、「知」に憧れつつもどこか拘りを
うかがわせる奥村知世、フランス映画の一
場面を見ているような描写力で読ませる石
田郁男、素材への執念と、表現力を高めよ
うと努力を惜しまぬ北澤道子、若者の日常
を素直に綴りつつ、人の一生を考えさせた
西村康平、躍動的な職業詠で清新な笹本碧、
熊本大地震に遭遇し、臨場感迫る報告を
した濱田千春、以上各氏の力作である。
受賞は西野國陽氏の時事詠連作とした。
簡にして要を得た表現力は、今現在の日本
の危機を的確にとらえ、社会への警鐘とな
り得る批評性を持ち手応えがある。